

平成26年5月28日(水)

老球の細道⑩

## 「死を想う！ 哀悼、佐々木昭夫氏」

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

享年61という若さで会津バスケットボール協会顧問である佐々木昭夫氏が亡くなった。かつて会津クラブのセンタープレーヤーとして県大会優勝、東北大会優勝、そして全国大会、国体と輝かしい実績を残した名プレーヤーである。現役引退後は地元のミニバスケットボールの指導や連盟の役員として大会運営、後進の指導に尽力してくれた。

「気は優しく力持ち」はまさに彼のためにあるような言葉だった。どんな時でも笑顔絶やさず人なつっこい人柄は皆から慕われていた。大会があるといつもスタッフルームに顔を出し、コーヒーを飲みながら昔話に花を咲かせていた。1月の百井杯でもそうだったのに、まさか逝ってしまうなどとは思ってもよらなかった。

死は突然やってくる。毎年20通以上の喪中ハガキが来る。知らないうちに多くの知人や関係者が亡くなっている。この1年間でも私にとって大切なバスケットボール関係者3名が鬼籍に入った。明日はわが身か。死を想い、毎日を意味のある特別な日に仕上げていかなければならない。

死生観とは、私のような年寄が持つものだろうか。お迎えが近づいたら持つものだろうか。そうではない。時間は永遠にあると錯覚しがちな若い時期に持つものである。なぜなら、人の命は明日をも知れず、いつ死ぬかわからないのが人間の宿命だから。若い時に毎日死を意識して生きることができたら、どれだけ時間を大切にできることだろう。どれだけ充実した毎日を過ごせることだろう。常に自分に言い聞かせたい、「死を想え！」。

江戸時代、九州鍋島藩(佐賀県)の『葉隠』の中には「武士道とは死ぬことと見つけたり」という一節がある。決して命を軽んじることを勧めているわけではない。いつでも死ぬるように、いつ死んでも悔いることのないように今日を精一杯生きよという戒めである。

数年前若くして亡くなったコンピューターで世界を変えた男、スティーブ・ジョブズが2005年スタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチは琴線に触れる名言である。

【私は17の時、こんな言葉をどこかで読みました。「毎日、これが人生最後の日と思って生きなさい。やがて必ず、その通りになる日がくるから」それは私にとって印象的でした。そしてそれから現在に至るまで33年間、私は毎朝鏡を見て自分に問いかけてきました。「もし今日が自分の人生の最後の日だとしたら、今日やろうとしていることを私は本当にやりたいだろうか？」と。その答えが「ノー」である日が続くと、そろそろ何かを変える必要があるとわかります。

自分がそう遠くないうちに死ぬと意識しておくことは、私がこれまで重大な選択をする際の最も重要なツールでした。ほとんどのものごと、外部からの期待、自分のプライド、屈辱や挫折に対する恐怖、こういったもののすべては死に臨んでは消えてなくなり、真に重要なことだけが残るからです。自分も死に向かっているという自覚は、私の知る限り、何かを失ってしまうかもしれないという思考の落とし穴を避けるための最善の策です。あなた方はすでに丸裸です。自分の心に従わない理由はありません。

あなた方の時間は限られています。他の誰かの人生を生きて無駄にははいけません。ドグマにとらわれてはいけません。それは他の人たちの思考の結果とともに生きることだ

からです。他人の意見の雑音によって自分の内なる声がかき消されてしまわないようにしてください。そして最も重要なことですが、あなたの直感に従う勇気をもってください。心や直感、あなたが本当は何になりたいのかをすでに知っています。他のことはすべて【二の次です】

バスケットボールコーチの神様、元UCLAコーチ、ジョン・ウッデンも曰う。

「L e a n a s i f y o u w e r e t o l i v e f o r e v e r .

L i v e a s i f y o u w e r e t o d i e t o m o r r o w .」

「永遠に生きられるかのように学び続けなさい。明日死ぬかのように今日を生きなさい」

諸行無常、無常迅速。人の死は突然やってくる。知人の死によってそのような人生の理に改めて気づかされ、人生が永遠にあるかのように時間を無駄にしていた毎日にくさびを打つことができた。いつお迎えが来てもいいように毎日を悔いなく精一杯生きること。瞬間、瞬間を大切にすること。佐々木昭夫君、安らかに眠ってください。